

授業科目	基礎教養入門			授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	高橋寛、渡邊洋一、高桑秀郎、松田水月、花田嘉雄、渡辺聡、宮地康子、伊藤和雄、木村重子、金須雄一							
ナンバリング	ELA1E01	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30	時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			一部該当*	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	担当教員が5つのカテゴリーに分かれ講義やグループディスカッションを通して、本学での2年間の学習で、これまでの自分の考えをどう組み替えるかなどを考えるきっかけとする。また、本学入学までに学修内容を、それぞれの学生が振り返り、この授業を通じて不足している学修を把握し、補い学修の伸長を進められるきっかけとする。							
アクティブラーニングの実施		○		ICTを活用した授業の実施		○		
到達目標	・「学ぶとは」「教養とは」「専門職とは」「プロ意識とは」「社会活動から学ぶ」の5つのカテゴリーに分けた講義を受講し、人間性ばかりでなく専門職としての能力を育てるために、これまでの認識を新たな合理的な認識に組み替えるとともに、知情意のバランスが取れた能力の確立ができるきっかけとする。 ・「自分で考え、実践できる能力」(3)「学際的な視点で考えることができる」を身に付ける。							
授業計画	第1回	テーマ	「学ぶとは」：本学での学びー建学の精神ー (担当 渡邊)					
		内 容	建学の精神の具体的な意味を、他大学等との比較を通して考える。					
		授業時間外学修	予習： ホームページやガイドブックなどで、本学園の概要を把握する。 復習： 学生便覧の最初のページ、建学の精神や三つのポリシーをていねいに読む。					
	第2回	テーマ	「学ぶとは」：高校までと大学の学習の違い (担当 渡邊)					
		内 容	作文とレポート・論文、講義と演習・実習の違いは何か、具体例を通して学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 児童・生徒・学生の意味を調べておく。 復習： 授業で学んだことを踏まえて、シラバスをていねいに読んでみる。					
	第3回	テーマ	「学ぶとは」：どんな知識の持ち方が良いか (担当 渡邊)					
		内 容	自分（の将来）と仕事を軸として互いに関連づけられた知識の体系を作る。					
		授業時間外学修	予習： 保育園と幼稚園の違いについて調べておく。 復習： 授業中に紹介した学校教育法や児童福祉法の一部をていねいに読む。					
	第4回	テーマ	「プロ意識とは」：素人とプロの違いとは (担当 高桑)					
		内 容	結果を残すことを求められるスポーツ選手を例えに専門職に就くということを考える。					
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読しておく。					

		学修	復習： 配布された資料を元に自分のこれまでの生活を振り返る。
	第5回	テーマ	「プロ意識とは」：プロから見た世界とは (担当 高桑)
		内 容	スポーツのトレーニング理論に基づいて、今後の学生生活の展望を考える。
		授業時間外学修	予習： 前回配布の資料を熟読しておく。 復習： 2年間の学生生活で具体的に何をしていくか考え、行動に移していく。
	第6回	テーマ	「社会生活から学ぶ」 ボランティアから学ぶ能力 (担当 花田)
		内 容	ボランティアから学ぶ能力と羽陽短大生にとって身近なボランティア活動について考える。
		授業時間外学修	予習： 自身のボランティア経験について振り返る。 復習： 簡易レポートをまとめて提出する。
	第7回	テーマ	「教養とは」：なぜ教養が必要か (担当 木村) *
		内 容	日常的な複数の視点から、教養について考える。
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業時に説明する。
	第8回	テーマ	「教養とは」：教養で何が育てられるか (担当 木村) *
		内 容	教養が生活にどのような影響を与えるのか、身近な例をもとにして学ぶ。
		授業時間外学修	予習： 前回授業終了時に説明する。 復習： 授業時に説明する。
	第9回	テーマ	「社会生活から学ぶ」 舞台活動の事例から、人生の歩き方を考える (担当 高橋)
		内 容	教員の豊富な舞台活動経験の事例に触れることによって、将来の保育士として必要な精神のあり方との共通点に気付く。
		授業時間外学修	予習： 保育士としてのあり方をまとめる。 復習： 授業時に説明する。
	第10回	テーマ	「専門職とは」：幼児教育者の醍醐味とは (担当 渡辺聡)
		内 容	保育場面の具体例を踏まえ、幼児教育における幼児教育者の役割とやりがいについて考える。
		授業時間外学修	予習： 自分が幼少期に体験した保育施設における生活を振り返り、楽しさを感じた活動と楽しさを感じた理由についてまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第11回	テーマ	「専門職とは」：幼児教育者の能力と育て方 (担当 渡辺聡)
		内 容	幼児教育者に求められる能力と、そのような能力の育み方について、グループディスカッションを通して考える。
		授業時間外学修	予習： 幼稚園見学の際の保育場面を振り返り、幼稚園教諭の幼児への関わり方で印象に残っていることをまとめる。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第12回	テーマ	「専門職とは」：介護とは① (担当 松田・宮地・伊藤・金須) *
		内 容	介護現場の現状理解。
		授業時間外学修	予習： 事前に、介護のイメージ、介護現場のイメージを整理しておく。 復習： この学びと、幼児教育の視点について整理する。

	第 13 回	テーマ	「専門職とは」：介護とは②（担当 松田・宮地・伊藤・金須）＊
		内 容	介護対象者の理解。
		授業時間外 学修	予習： 事前に、介護のイメージ、介護現場のイメージを整理しておく。 復習： この学びと、幼児教育の視点について整理する。
	第 14 回	テーマ	「専門職とは」：介護と保育①（担当 松田・宮地・伊藤・金須）＊
		内 容	幼児教育と介護福祉との支援の接点を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： 事前に、介護のイメージ、介護現場のイメージを整理しておく。 復習： この学びと、幼児教育の視点について整理する。
	第 15 回	テーマ	「専門職とは」：介護と保育②（担当 松田・宮地・伊藤・金須）＊
		内 容	自己の適正能力を探る。
		授業時間外 学修	予習： 事前に、介護のイメージ、介護現場のイメージを整理しておく。 復習： この学びと、幼児教育の視点について整理する。
	第 16 回		まとめと振り返りのレポート提出（担当 高橋）
教科書・テキスト		使用しない。	
参考書・参考資料等		参考文献は各担当者が説明する。	
成績評価の 方法・基準		各授業担当者のレポートにより、各領域理解の程度（60％）、「自分で考え、実践できる能力」（3）の獲得の程度（30％）、授業参加度（10％）で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法		授業時に提出されたレポートは、各担当者から解説や講評を行う。	
授業時間外学修		予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）。 まとめに向けて、各授業のノート、配布資料等を整理し、授業を振り返り、本学での学びについて考える。（約 10 時間）	
備 考		＊担当教員の一部が、実務経験のある教員による授業科目である。 松田は、病院、公的機関で 9 年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。 宮地は、病院、介護老人福祉施設で 9 年間看護師として従事した実務経験を持つ。 伊藤は、介護老人福祉施設で 26 年間介護業務、相談援助業務、介護計画作成業務に従事した実務経験を持つ。 担当教員の金須は、介護老人福祉施設、在宅介護に 17 年間介護福祉士として従事した実務経験を持つ。	
連絡先（質問等）		各教員が、授業前後に、教室で質問を受け付ける。 または、高橋（担当教員代表）が質問等を受け付け、該当教員から回答する。	

授業科目	倫理学			授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	平田俊博							
ナンバリング	ELA1E02	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士:選択必修 主事任用:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	保育者や介護者として必要な倫理力について、現代の時代状況に対応しながら講義する。いま世界はコロナ・パンデミックに直面して、デジタル革命が急速に進行し、社会観も人間観も倫理観も激変を迫られている。デジタル倫理観について、最新のビデオ教材や新聞を参考にしながら、皆で意見を交換する。レポートにまとめたりして、他者との違いを認識し、各自が自分の意見を固め表現できるようにする。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施				
到達目標	・保育者の倫理観と倫理的実践力について、幼児の発達観と時代の変化に即して理解し、説明できる。 ・デジタル革命による社会の急激な変化に対応できる倫理的実践力を養い、保育・介護に役立てる。 ・自分と他人の違いを認識して、倫理的実践力を培い、互いに協調し協力できる保育・介護者になる。 ・「コミュニケーション能力」(2)「人間への信頼」を育成する。							
授業計画	第 1 回	テーマ	デジタル倫理とは何か？ ～個人倫理と社会倫理～					
		内 容	ウイズ・コロナ時代の倫理について、グループワークとディスカッション。					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。NIE（新聞を教育に）。 復習：ビデオ『コロナと感受性期・外出自粛でゲーム依存』についてレポート練習。					
	第 2 回	テーマ	デジタル倫理学とは何か？ ～法学と社会学と倫理学～。グループワーク					
		内 容	個人の良心と決断に立脚する、個人主義的な近代倫理の問題点をディスカッション。					
		授業時間外学修	予習：コロナ予防のためのマスクや手指衛生について、各自の体験を整理する。 復習：ビデオ『地球温暖化・劣化する精子と卵子・梅毒蔓延』について考える。					
	第 3 回	テーマ	デジタル革命とは何か？ ～紙の文化からケータイ文化へ～。グループワーク。					
		内 容	スマートフォンなどの爆発的浸透によって、社会環境、家庭環境、学校環境等が一変した。ケータイ機器とどう付き合うかが、デジタル社会の最重要課題となる。NIE					
	第 3 回	授業時間外学修	予習：自分のスマートフォンの使い方を発表できるように整理しておく。 復習：ビデオ『進行性近視と乳幼児斜視』についてレポートを書く。					
		第 4 回	テーマ	デジタル保育とは何か？ ～系統発生的な人類進化観と個体発生的な発達観～				
	内 容		胎児期から保育期の子育ての決定的重要さを深く理解しよう。グループワーク。					
	授業時間外学修		予習：特別支援教育に関する各自の思い出を整理しておこう。 復習：ビデオ『生殖異変～地球環境危機～』についてレポートを書く。					
	第	テーマ	メディア漬けとは何か？ ～生命感覚・身体感覚の劣化～					

	5 回	内 容	室内で体を動かさず言葉を発することもなく、ひたすら孤独に電子映像メディアと向き合って過ごす子どもたちの、日常生活の危険についてディスカッション。
		授業時間外 学修	予習：ここ一年来の電子映像メディアへの各自の接触時間を、振り返ろう。 NIE 復習：ビデオ『 ゲーム障害・眼軸近視 』についてレポートを書く。
	第 6 回	テーマ	デジタル生活とメディア漬けの進行 ～人類史上初めての人体実験～
		内 容	電子映像メディアへの接触時間の増大が、体幹筋力と自律神経の成長に、どのように影響するかを、自分の体で実感しよう。プレゼンテーション。
		授業時間外 学修	予習：視力、聴力、背筋力、血圧、体温調節等について、各自の現状を調べる。 復習：ビデオ『 韓国ネット依存治療 』について考える。
	第 7 回	テーマ	メディア漬けと社会性～コミュニケーション能力の未発達～；中間試験
		内 容	言葉を使わないで、噛みつく、引っ掻く、体当たり、奇声などで感情を表現し、暴力行為に走りやすい子供たちに、どう対応できるかを考えよう。 NIE
		授業時間外 学修	予習：理解の程度を確認するために中間試験を実施するので、総復習しておく。 復習：ビデオ『 若者のゲーム依存・サル化する人間 』についてレポートを書く。
	第 8 回	テーマ	メディア漬けと大脳異変 ～意志のコントロールができない～
		内 容	乳幼児期からの長時間のメディア接触が、前頭葉とか線条体など脳の基幹部にも影響を及ぼし、人格形成に悪影響をもたらす。 NIE
		授業時間外 学修	予習：長時間のメディアに接触により、自己制御ができなかった体験を考える。 復習：ビデオ『 ひきこもりと発達障害 』についてレポートを書く。
	第 9 回	テーマ	ウイズ・コロナ時代のデジタル社会～外出自粛とテレワーク～。グループワーク。
		内 容	外出自粛要請が長期化する中、電子映像メディアへの接触時間が一段と長くなりつつある。メディア漬けの子育てによる軽度発達障がい急増が危惧されている。 NIE
		授業時間外 学修	予習：軽度発達障がいの親や子どもたちとの交流体験を語り合おう。 復習：ビデオ『 ゲーム障害 』についてレポートを書く。
	第 10 回	テーマ	世代間倫理とは何か？ ～メディア中毒で育った親と子～
		内 容	世代間でさらに悪化する劣化の連鎖が社会的格差の拡大につながり、日本社会の平安を脅かすことを説明する。 プレゼンテーションとグループワーク。
		授業時間外 学修	予習：家庭倫理と世代間倫理について、皆で意見を出し合おう。 復習：ビデオ『 ヤングケアラー 』について考える。
	第 11 回	テーマ	メディア中毒とモンスターペアレント ～外面（そとづら）と内面（うちづら）～
		内 容	自己の感情を制御できないメディア中毒の親が多数いることを理解し、家庭内虐待や虐待死の急増に現れていることを説明する。グループワーク。
		授業時間外 学修	予習：メディア中毒と家庭内虐待について、自分の考えを整理しよう 復習：ビデオ『 虐待入院・育児放棄 』についてレポートを書く。
	第 12 回	テーマ	家庭倫理とは何か？ ～家庭内暴力と家族崩壊～
		内容	メディア漬けで育った多面的な発達不全の世代が、いま親となり子育てを始めつつある。大脳異変の親たちを支援する、新しい家庭倫理について説明する。 NIE
		授業時間外 学修	予習：大脳異変と思われる大人や親たちを見たことがありますか？ 復習：ビデオ『 DV 家庭・未成年の性被害 』についてレポートを書く。

	第 13 回	テーマ	愛着障害とは何か？ ～メディア依存症と親子の愛着形成～
		内 容	赤ちゃんとのアイコンタクトがないネグレクト未亡人の母親の行動が、親子の愛着形成を決定的に拒んでいる現状を学ぶ。プレゼンテーションとディスカッション。
		授業時間外 学修	予習：配布資料で、「親子の愛着形成」について、読んでおこう。 復習：ビデオ『少年犯罪・虐待後を生きる』についてレポートを書く。
	第 14 回	テーマ	デジタル社会のデジタル倫理 ～自分の人生のデザイン～。グループワーク。
		内 容	自分のデジタル社会倫理観について発表し、仲間と意見を交換する。どうすれば友人や恋人を作り、就職し、結婚して、自分の家庭を築き上げることができるかを考えよう。 NIE
		授業時間外 学修	予習：自分の生き方や人生観について、自分なりに考えておこう。 復習：ビデオ『ジェンダーサイエンス—LGBTQ と月経—』についてレポート。
	第 15 回	テーマ	デジタル時代における保育と介護 ～コロナに負けないために～。グループワーク。
		内 容	これまでの授業を総括して倫理的な観点から各人の保育・介護観を語り合い、相互の理解を深めよう。定期試験の問題を発表する。 NIE
		授業時間外 学修	予習：定期試験の準備をしよう。 復習：ビデオ『ジェンダーサイエンス—モザイク脳とフェミニズム—』の感想。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	資料で配布：清川輝基・内海裕美著『「メディア漬け」で壊れる子どもたち』少年写真新聞社、2009 年		
参考書・参考資料等	授業中に適宜、NIE（新聞を教育に）資料を配布する。電子辞書、国語辞典のどれか 1 冊用意。		
成績評価の方法・基準	方法：期末試験：60％ 授業内試験：10％ 授業内提出物：20％ 授業内活動：10％ ※各領域理解の程度(55%)、「コミュニケーション能力」(2)獲得の程度(30%)、授業参加度(15%)で評価する。 基準：①保育者の倫理観と倫理的実践力について、幼児の発達観と時代の変化に即して理解し、説明できる。②デジタル革命による家庭環境の急激な変化に対応できる倫理的実践力を身につけ、保育・介護に役立てる。③自分と他人の違いを認識して、互いに協調し協力できる保育・介護者になる。 ①～③の合計で 60 点以上の点数を獲得すること。		
課題に対するフィードバックの方法	授業中に実施する小テストやレポートについては、後の授業回にて解説を行う。回収したレポートについては、返却時に添削と口頭コメント、ならびに全体に対する講評を行う。模範となる優秀レポートを皆の前で、著者がプレゼンテーションし、聴講者との質疑応答の司会をする。		
授業時間外学修	毎回の授業内容を把握しておくことを前提に講義を進めるので、必ずシラバスとテキストに事前に目を通して授業に臨むこと（毎回約 2 時間）。配布資料で指定した箇所を事前に予習しておくこと（毎回約 1 時間）。毎回の講義内容を復習し、課題のレポートを作成（4 回以上提出）して、確実に理解しておくこと（合計で 15 時間）。定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する（約 12 時間）。定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める（約 3 時間）。		
備 考	ビデオやNIE（新聞を教育に）を活用するので、授業計画に少し変更がある場合もある。		
連絡先（質問等）	thirata@taupe.plala.or.jp		

授業科目	文学			授業形態	講義	単位数	2	単位
担当者	柏倉弘和							
ナンバリング	ELA1E03	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	文学作品を読んだり、歌を聴いて歌詞について考えたりする。文学作品を原作にした映画の鑑賞と並行して原作を読み進めることも試みる。感じたり想像したりしながら、作品の世界に浸り、味わっていく。							
アクティブラーニングの実施		-		ICT を活用した授業の実施		-		
到達目標	・言葉に即して読む力を身につける。 ・表現を味わい、想像する力を磨く。 ・様々な作品に触れて、人間・社会・人生等についての考えを深めることができる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。							
授業計画	第1回	テーマ	文学について					
		内 容	リアリティや描写等、文学の重要な特質について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第2回	テーマ	「よだかの星」を読む。					
		内 容	「よだかの星」を読み、生きることについて考える。					
		授業時間外学修	予習： 前時に配付された「よだかの星」を読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。					
	第3回	テーマ	「どんぐりと山猫」を読む。					
		内 容	「どんぐりと山猫」を読み、特徴を捉え、描写を味わう。					
		授業時間外学修	予習： 前時に配付された「どんぐりと山猫」を読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。					
	第4回	テーマ	「虔十公園林」を読む。					
		内 容	「虔十公園林」を読んで、自分の生活について考える。					
		授業時間外学修	予習： 前時に配付された「虔十公園林」を読んでおく。 復習： 宮沢賢治の他の作品を読んでみる。					
	第5回	テーマ	歌詞について					
		内 容	歌を聴いて歌詞について考える。					
		授業時間外学修	予習： 好きな歌の歌詞に注目して聴いてみる。					

			復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度歌を聴いてみる。
	第6回	テーマ	文学作品の文体について
		内 容	谷崎潤一郎の「春琴抄」を読み、独特の文体に慣れる。
		授業時間外学修	予習： 前時に配付された「春琴抄」の1枚目を読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。
	第7回	テーマ	文学作品のストーリーについて
		内 容	「春琴抄」を読み、あらすじを捉える。
		授業時間外学修	予習： 前時に配付された「春琴抄」の2枚目を読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。
	第8回	テーマ	文学作品の登場人物について
		内 容	「春琴抄」を読み、春琴と佐助の関係について考える。
		授業時間外学修	予習： 前時に配付された「春琴抄」の3、4枚目を読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。
	第9回	テーマ	小説と映画
		内 容	映画「春琴抄」の前半を観て、ストーリーを捉える。
		授業時間外学修	予習： 谷崎潤一郎について調べる。 復習： 映画と比べながらもう一度「春琴抄」の4枚目まで読む。
	第10回	テーマ	文学作品の登場人物の関係
		内 容	「春琴抄」を読み、春琴と佐助の関係の変化について考える。
		授業時間外学修	予習： 前時に配付された「春琴抄」を最後まで読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。
	第11回	テーマ	小説と映画の違い
		内 容	映画「春琴抄」の後半を観て、春琴と佐助の関係を捉える。
		授業時間外学修	予習： 恋愛について考えをまとめておく。 復習： 映画と比べながらもう一度「春琴抄」を読む。
	第12回	テーマ	原作と映画
		内 容	「世界の中心で愛をさけぶ」の映画を観て、原作と比較する。
		授業時間外学修	予習： 前時に配付された「春琴抄」の7、8枚目を読んでおく。 復習： 授業内容を振り返りながら、もう一度作品を読んでみる。
	第13回	テーマ	文学と映画の共通点
		内 容	映画「世界の中心で愛をさけぶ」の映画を観て、原作との共通点について考える。
		授業時間外学修	予習： これまでの授業内容を振り返る。 復習： 小説を映画化した作品について調べる。
	第14回	テーマ	文学と映画
		内 容	授業で取り上げた作品を比較し、それぞれの共通点と違いについて考える。
		授業時間外学修	予習： これまで取り上げた歌詞について、感じたことをまとめておく。 復習： 小説を映画化した作品を観てみる。
	第	テーマ	まとめ

	15 回	内 容	これまでの授業内容を振り返り、改めて描写について理解し、味わう。
		授業時間外学修	予習： これまでの授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。 復習： 疑問点について既習内容を確認する。
	第 16 回		定期試験
教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配付する。		
参考書・参考資料等	新しい文学のために（大江健三郎著 岩波書店）		
成績評価の方法・基準	定期試験と毎回の授業後に提出する小レポートにより、作品の理解・鑑賞の程度（55%）、「コミュニケーション能力」（1）獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出された小レポートについては、次回の授業において解説する。定期試験については、採点後講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。授業中の資料や返却された小レポートを見直し、既習内容を確認するとともに次回の授業内容との関わりを理解する。（約 45 時間） 定期試験の結果を踏まえ、自己評価するとともに既習内容の理解を深める。（約 1 時間）		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員は、公立中学校にて 12 年間教諭として業務に従事した実務経験を持つ。中学校教諭としての実務経験を活かして、文学について具体的な事例を挙げながら授業を行う。		
連絡先（質問等）	授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	日本国憲法			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	曾我洋介						
ナンバリング	ELA2B04	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1) 理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2) 専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1) 基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2) 実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3) 学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	憲法とは、国の組織と作用に関する基本的な規律を意味する。日本国の場合、その大要は昭和 21 年に公布された「日本国憲法」により定められている。この講義では、同憲法の各規定に何が定められているのか、それが各国家機関によってどのように実践されているのか、それらがいかなる考え方によって基礎づけられているのか、そして、憲法解釈に争いのある事例が、どのような考え方の違いによって惹き起こされているかについて学修する。 授業は、配付印刷物にそって、e-gov 法令検索、予算書・決算書データベース、条約データ検索その他国家機関のウェブサイトを参照しながら、講義形式で実施する。						
アクティブラーニングの実施					ICT を活用した授業の実施		○
到達目標	1. 各国家機関の組織と権限について記述できる。 2. 基本的権利の内容とその実現方法について記述できる。 3. 憲法の基礎にあってこれを支える考え方について記述できる。 4. 国の活動に対する日本国憲法による特定の規律のあり方について、理由を示しながら論理的に記述できる。 5. 「自分で考え、実践できる能力」を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	導入と権利義務について				
		内 容	授業の概要と成績評価方法について説明した後、法学の基本概念である権利と義務について学修する。				
		授業時間外学修	予習：日本国憲法の全文を一読する。事前学修動画を視聴する。 復習： 授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。身近にある権利と義務を摘示してみる。				
	第 2 回	テーマ	憲法とは何かについて（権利保障と権限配分など）				
		内 容	国が法人であることについて理解した上で、憲法が国民の権利を保障し、権限を分配していることの意味について学修する。				
		授業時間外学修	予習：日本国憲法の章立てを確認する。また、次の三つの文章がどのような関係にあるのかを考えておく。「国が奈良の大仏をつくった。」「聖武天皇が奈良の大仏をつくった。」「仏像職人が奈良の大仏をつくった。」 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。身近にある「A を B とみなす」				

			というルールが機能することで存在している事象を摘示してみる。
	第3回	テーマ	法律と命令について（国会による立法と行政機関による立法）
		内 容	国会の意思決定を経なければ定められない法律と、行政機関の意思決定を経るだけで定められる命令との区別を学修する。
		授業時間外学修	予習：次の法令を参照しておく。日本国憲法 41 条、56 条 2 項、58 条 2 項、59 条、64 条、67 条 1 項、72 条、73 条、77 条 1 項、90 条、94 条、96 条、98 条、内閣府設置法 7 条、58 条、国家行政組織法 12 条、13 条、国家公務員法 16 条。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。自分の将来の職業に関わる法律と命令を摘示してみる。
	第4回	テーマ	法律事項について（権利を制限するための法など）
		内 容	法律という形式で意思決定しなければならない事項について学修し、国が一方的に権利を制限し、義務を課すためには法律が必要となることを理解する。
		授業時間外学修	予習：次の法令を参照しておく。日本国憲法 7 条、10 条、26 条、30 条、41 条、43 条、47 条、59 条、60 条、66 条 1 項、72 条、73 条四号、六号、76 条 1 項、国家公務員法 3 条 3 項、16 条、23 条の 2、102 条 1 項、111 条の 2、内閣法 25 条 3 項、復興庁設置法 7 条 3 項、内閣府設置法 7 条 3 項、58 条 4 項、国家行政組織法 12 条 1 項、13 条 1 項、食品衛生法 12 条、食品衛生法施行規則 12 条、別表第一、保健師助産師看護師法 7 条 3 項、保健師助産師看護師法施行規則 1 条の 3、書式第一号の三、個人情報保護法 33 条、34 条、35 条、人事院規則 14-7 第 6 項。また、配布印刷物第 01 章の「権利」を復習しておく。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。自分の将来の職業に関わる義務の根拠となっている法律条文を摘示してみる。
	第5回	テーマ	非法律事項（行政機関も定められる事項）と内閣が作成し国会が承認する予算について
		内 容	法律を必要とせず命令などの形式で意思決定できる事項と予算について学修する。
		授業時間外学修	予習：次の法令を参照しておく。日本国憲法 7 条七号、59 条、60 条、61 条、73 条二号、三号、五号、76 条 1 項、86 条、財政法 11 条、14 条の 2、16 条、褒章条例 1 条。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。自分の将来の職業に関わる予算の項目を摘示してみる。
	第6回	テーマ	内閣が締結する条約について
		内 容	国際法にいう条約と日本国憲法にいう条約との差異を学修する。
		授業時間外学修	予習：次の法令を参照しておく。日本国憲法 61 条、73 条二号、三号、条約法に関するウィーン条約 2 条 1 項 a、民法 522 条、日米安全保障条約 8 条。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。
	第7回	テーマ	司法権と裁判を受ける権利について（法律上の争訟）
		内 容	司法権と裁判を受ける権利の関係を理解した上で、法律上の争訟を裁判する権限について学修する。

		授業時間外学修	予習：配付印刷物第 01 章の「権利」と「公益」、同 02 章の「法律事項」、同 03 の「非法律事項を法律で規律することの意味」を復習する。次の法令を参照しておく。日本国憲法 32 条、37 条 1 項、76 条 1 項、裁判所法 3 条 1 項。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。国会の権限と国民の権利義務との関係、裁判所の権限と国民の権利義務との関係を整理する。
	第 8 回	テーマ	法律に基づく裁判権について
		内 容	日本国憲法ではなく法律に基づいて行使される裁判権について学修する。
		授業時間外学修	予習：次の法令を参照しておく。日本国憲法 20 条、89 条、地方自治法 242 条、242 条の 2、公職選挙法 203 条、204 条。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。
	第 9 回	テーマ	裁判所の裁判をする権限の限界について（裁量権、部分社会の法理、基本的人権の機能の仕方など）
		内 容	裁判所が裁判権を行使できない場合や、裁判権の行使を抑制する場合について学修するとともに、日本国憲法に定められた権利の機能の仕方と国会が法律を定めることの意味を理解する。
		授業時間外学修	予習：配布印刷物第 03 章と第 04 章とを再確認し、国や地方公共団体を法で統制する仕方を復習しておく。また、次の法令を参照しておく。日本国憲法 10 条、14 条 1 項、25 条、55 条、64 条、78 条、裁判官弾劾法 2 条、16 条 1 項、行政事件訴訟法 30 条、外交関係に関するウィーン条約 31 条。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。
	第 10 回	テーマ	違憲審査権の行使の仕方について
		内 容	日本国が採用している違憲審査制の性質と違憲審査権行使にかかる制約について学修する。
		授業時間外学修	予習：次の法令を参照しておく。日本国憲法 9 条、14 条 1 項、20 条、21 条、81 条、自衛隊法 121 条、関税法 69 条の 11 第 1 項第七号、2 項、刑法 25 条、39 条、66 条、67 条、68 条、72 条、77 条、199 条。また配付印刷物 04 を再確認し、裁判所が裁判権を行使する場合を復習しておく。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。
	第 11 回	テーマ	基本的人権 1:公共の福祉の基本的性質について
		内 容	基本的人権を制限する根拠となる 公共の福祉の基本的性質について学修する。 基本的人権を制限する根拠となる 公共の福祉の基本的性質について学修する。
		授業時間外学修	予習：配付印刷物 02 の「法律事項」、同 06 の「違憲審査権」を再確認し、日本国憲法により保障された権利がどのように制限され、その制限がどのように審査されるのかを復習しておく。日本国憲法第 3 章全体、道路交通法 71 条の 3、71 条の 4。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。自分の将来の職業に関わる権利の制限を摘示し、それがどのような「公共の福祉」にもとづいているのかを記述してみる。
	第 12 回	テーマ	基本的人権 2:諸権利の基本的性質について
		内 容	憲法上の諸権利の分類と基本的性質について学修する。

	回	授業時間外学修	予習：配布印刷物第 01 章を確認し、法学における基本的なものの見方と憲法の定義を復習しておく。次の法令を参照しておく。日本国憲法第 3 章、44 条、79 条 2 項、93 条 2 項、95 条、96 条。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。	
	第 13 回	テーマ	基本的人権 3: 権利制限の合憲性審査について	
		内 容	裁判所が権利制限の合憲性を審査する場合に留意することになる事項について学修する。	
	第 14 回	授業時間外学修	予習：配布印刷物第 06 章の「違憲審査権」を確認しておく。次の法令を参照しておく。日本国憲法第 3 章、電気事業法 17 条 3 項、医師法 19 条 1 項、道路運送法 13 条、労働基準法 3 条、4 条、民法 1 条、90 条。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。憲法上の権利を有する国民個人、権利を制限する国会と行政機関、裁判権と違憲審査権を行使する裁判所の関係を図式化して整理する。	
		テーマ	自衛権と戦争等について	
	第 15 回	内 容	国際法にいう自衛権と戦争等について学修する。	
		授業時間外学修	予習：次の法令を参照しておく。日本国憲法 9 条、刑法 36 条、警察官職務執行法 7 条、国際連合憲章 2 条 4 項、23 条、27 条 3 項、39 条、41 条、42 条、51 条。また、配付印刷物第 01 章、同第 03 章第 3 節を再確認し、法学における基本的なものの見方と国際法の基本について復習しておく。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。	
	第 16 回	テーマ	日本国憲法 9 条の解釈について	
		内 容	日本国憲法9条の解釈について学修する。	
	第 17 回	授業時間外学修	予習：前回の授業で説明した自衛権を復習しておく。次の法令を参照しておく。日本国憲法 9 条、13 条、66 条 2 項、日米安全保障条約 5 条、6 条。 復習：授業内容を整理し、配付印刷物に書き込む。	
		第 18 回		
	教科書・テキスト	教科書は指定しない。		
	参考書・参考資料等	・大石眞・大沢秀介編著 『判例憲法（第 3 版）』（有斐閣 2016 年） 978-4-6412-2703-3 ・長谷部恭男他編 『憲法判例百選Ⅰ第 7 版』（有斐閣 2019 年） 978-4-641-11545-3 ・長谷部恭男他編 『憲法判例百選Ⅱ第 7 版』（有斐閣 2019 年） 978-4-641-11546-0		
成績評価の方法・基準	1. 授業参加度（15%） 2. 「自分で考え、実践できる能力」能力到達度（5%） 3. 専門的知識の理解や専門的考え方の修得度（80%） 上記 1 については毎回授業後に提出すべき授業参加を確認する書面によって評価する。 上記 2 及び 3 については複数回出題する課題の成績によって評価する。			
課題に対するフィードバックの方法	課題の解説は提出期限後の授業時または得点開示時に行う。			
授業時間外学修	事前学修について（毎回概ね 2 時間） ・事前学修動画が指示されている場合はそれを視聴する。			

	・ファイル「参照予定条文等」に掲載されている法令の存在を確認し、条文が指示されている場合はそれを一読する。 事後学修について（毎回概ね２時間） ・事後学習動画が指示されている場合はそれを視聴する。 ・授業内容を配付印刷物の空白部分に適切に筆記し、配付印刷物を完成させる。 ・課題が出題された場合は早めに取り組み、期限までに必ず提出する。
備 考	この授業の内容を理解するためには、知識を確実に積み上げていくが必要になります。初回の授業から最後の授業まで、事前学修と事後学修の双方を確実に行うようにしてください。
連絡先（質問等）	授業や課題に関する質問は、各回の授業開始前もしくは終了後、または、電子メールを通じて受け付けます。

授業科目	経済学			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	溜川健一						
ナンバリング	ELA1E05	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:選択必修 主事任用:選択必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1) 理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2) 専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1) 基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2) 実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3) 学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	経済学は、資源に限りがある中で、我々が財・サービスをどのように生産・分配・消費しているか、していくべきかを考える学問である。本講義では、経済学の初歩的な内容を説明する。配布資料を用いた講義形式で授業を進める。						
アクティブラーニングの実施		-		ICT を活用した授業の実施		-	
到達目標	・受講者は、個別の財・サービスに関して、価格や購入・販売数量がどう決まるかなどについて、経済学の観点で考えることができる。 ・受講者は、国の経済活動について、何を見ればそれを把握できるかを説明できる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	イントロダクション				
		内 容	講義で説明する内容を簡単に紹介する。				
		授業時間外学修	予習：シラバスに目を通しておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。				
	第 2 回	テーマ	意思決定について考える				
		内 容	我々がどのように意思決定をしているかを費用と便益の観点から考える。				
		授業時間外学修	予習：起きてから寝るまで、自分がどのように意思決定をしているかを改めて考えてみよう。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。				
	第 3 回	テーマ	「需要」について考える				
		内 容	「この価格でこれだけ買いたい」を表現する需要曲線について学ぶ				
		授業時間外学修	予習：自分がどのようにモノを買っているか改めて考えてみよう。前回の復習もしておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。				
	第 4 回	テーマ	「供給」について考える				
		内 容	「この価格でこれだけ作って売りたい」を表現する供給曲線について学ぶ				
		授業時間外学修	予習：企業が利潤を最大にするように行動するとき、何に注意するか考えてみよう。前回の復習もしておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。				

	第5回	テーマ	市場とは何か
		内 容	需要と供給が会う場所である「市場」の機能について考える。
		授業時間外学修	予習：需要曲線と供給曲線について復習しておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。
	第6回	テーマ	市場の失敗を考える
		内 容	市場も完全ではない。どう「失敗」するかを解説する。
		授業時間外学修	予習：市場を独占している企業がいるとき何が起こるかを考えてみよう。前回の復習もしておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。
	第7回	テーマ	労働市場を考える
		内 容	賃金はどうか決まるか？労働の需給で考える。
		授業時間外学修	予習：自分の就きたい職業の賃金を調べてみよう。前回の復習もしておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。
	第8回	テーマ	中間試験
		内 容	ここまでの内容の試験を実施する。
		授業時間外学修	予習：これまでの授業の内容を復習しておく。 復習：試験問題と関連する授業の内容を復習する。
	第9回	テーマ	一国の経済規模とは何か
		内 容	国内総生産（Gross Domestic Product, GDP）について解説する。
		授業時間外学修	予習：GDP に関する新聞・雑誌・ネット記事を読む。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。前回の復習もしておく。
	第10回	テーマ	物価とは何か
		内 容	消費者物価指数（Consumer Price Index, CPI）について解説する。
		授業時間外学修	予習：CPI に関する新聞・雑誌・ネット記事を読む。前回の復習もしておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。
	第11回	テーマ	貨幣について考える
		内 容	貨幣とは何か？3つの機能について解説する。
		授業時間外学修	予習：なぜ1万円札という紙切れで1万円分のものが買えるのか考えてみよう。前回の復習もしておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。
	第12回	テーマ	物価の変動を考える
		内容	インフレーション（インフレ）がもたらすものについて解説する。
		授業時間外学修	予習：インフレに関する新聞・雑誌・ネット記事を読む。前回の復習もしておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。
	第13回	テーマ	わが国の財政を考える
		内 容	わが国の歳入や歳出、債務規模について考える。
		授業時間外学修	予習：「参考書・参考資料等」にある財務省の資料を読む。前回の復習もしておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。

	第 14 回	テーマ	わが国の社会保障制度について
		内 容	わが国の社会保障制度の現状について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：「参考書・参考資料等」にある厚生労働省の資料を読む。前回の復習もしておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。
	第 15 回	テーマ	全体のまとめ
		内 容	講義全体を簡単に振り返る。
		授業時間外 学修	予習：これまでに配布された資料を見直しておく。 復習：配布資料を見直して要点を整理する。
教科書・テキスト		授業時に配布する紙媒体の資料を使う。	
参考書・参考資料等		イングランド銀行公式 経済学がよくわかる 10 章（イングランド銀行、ルパル・パテル、ジャック・ミーニング著 すばる舎） これからの日本のために財政を考える（財務省、下記 URL） https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202310_kanryaku.pdf 社会保障とは何か（厚生労働省、下記 URL） https://www.mhlw.go.jp/content/12600000/001326641.pdf	
成績評価の 方法・基準		毎回のコメントシートの提出、中間試験、期末レポートにより、専門的理解の程度（60%）、「コミュニケーション能力」（1）獲得の程度（30%）、授業参加度（10%）の割合で評価する。	
課題に対する フィードバックの方 法		授業中もしくは採点後に講評する。	
授業時間外学修		予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 中間試験や期末レポートに向けて授業資料を見直す。（50 時間） 中間試験や期末レポートの結果に基づいて、授業資料を見直し分からなかったところを復習する。（10 時間）	
備 考			
連絡先（質問等）		授業前後に質問すること。	

授業科目	総合科目			授業形態	講義	単位数	2 単位
担当者	渡邊洋一						
ナンバリング	ELA1E06	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士：選択必修			実務経験のある教員による授業科目			該当しない
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	・幼児教育・保育・福祉の現場では、チームワークが重要である。誤解のないコミュニケーションをするためにも、個人の経験のみに頼らず、科学的な思考法・判断・説明が必要である。 ・この授業では、人間の行動を総合的・科学的に考えるために、講義のほか実験やディスカッションをまじえて学ぶ。この際、積極的な参加を高く評価する。 ・実験の結果や個人の意見を聴取する際に、E メールによる回答を求める場合がある。メールアドレス等、Eメールの使用法については授業中に説明する。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施			
到達目標	・日常生活で起きる事柄について、科学的に考え、それを人に説明できるようになる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活・社会についての知識・理解」を修得する。						
授業計画	第 1 回	テーマ	保育と科学				
		内 容	保育や福祉の現場での課題解決における科学的思考の重要性に気づく。				
		授業時間外学修	予習：保育や福祉に関して具体的に疑問に思っている点を書き出しておく 復習：自分の考えた具体例に対して科学的に検討できているか考えてみる。				
	第 2 回	テーマ	科学とニセ科学				
		内 容	「血液型性格論」を題材として、科学的思考の基本を考える。				
		授業時間外学修	予習：自分自身の「性格」について考えて特徴を書き出しておく。 復習：授業で学んだ知識を使って、あらためて「性格」について考えてみる。				
	第 3 回	テーマ	心の入り口				
		内 容	「感覚過敏」や「色覚異常」を通して、感覚の仕組みを学ぶ。(実験を含む)				
		授業時間外学修	予習：自分の味覚や嗅覚、音に対する感覚などについて考えてみる 復習：下記参考書の感覚の章を読み、感覚の特性について整理する。				
	第 4 回	テーマ	乳児は母親の顔がわかるか？				
		内 容	顔の知覚を通して知覚の特性について学ぶ。(実験を含む)				
		授業時間外学修	予習：乳児の発達について知識を確認しておく。 復習：下記参考書の知覚や感性の章を読み、知覚の特性について整理する。				
	第 5 回	テーマ	注意と不注意				
		内 容	覚醒と選択的注意、ADHD（注意欠陥多動）などについて学ぶ。(実験を含む)				

	回	授業時間外 学修	予習：不注意だった経験を書き出してみる。 復習：下記参考書の注意の章を読み、注意の特性について整理する。
	第 6 回	テーマ	行動と環境の相互作用
		内 容	自動車の運転を例に、実験を通して、環境の中での行動を学ぶ。(実験を含む)
		授業時間外 学修	予習：自分の行動する範囲について、交通事情など状況を確認しておく。 復習：授業中に紹介された JAF の HP など参考に交通安全について考える。
	第 7 回	テーマ	「かんしゃく」とは何か
		内 容	感情とストレスについて科学的に学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：最近、感情を爆発させた状況を書き出してみる。他人の事例でもよい。 復習：下記参考書の感情の章を読み、感情の仕組みについて調べる。
	第 8 回	テーマ	物忘れとは何か
		内 容	健忘を例に、記憶のしくみについて実験を通して学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：最近経験した物忘れを書き出してみる。 復習：下記参考書の記憶の章を読み、記憶の仕組みについて調べる。
	第 9 回	テーマ	思い出とは何か。
		内 容	メロディの記憶や顔の記憶を例に、長期記憶について実験を通して学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：(とくに老人の) 記憶障害について調べておく。 復習：下記参考書の記憶の章を読み、日常的な記憶の問題について調べる。
	第 10 回	テーマ	社会的認知とは
		内 容	対人魅力、対人印象とか何か。実験を通して学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：魅力的だと思える人物(複数)について、その特徴を整理しておく。 復習：自分の性格について、対人関係からあらためて考えてみる。
	第 11 回	テーマ	個人と集団
		内 容	集団圧力、同調とは何か。グループ・ディスカッションを通して考える。
		授業時間外 学修	予習：家庭、クラスなど自分の所属する集団の特徴を書き出しておく。 復習：自分と集団との関係について、他の人と比較して考えてみる。
	第 12 回	テーマ	「認知能力」のまとめ
		内容	知能テストを材料に、認知能力とはどのような能力か実験を通して考えてみる。
		授業時間外 学修	予習：「頭がいい」と思われる人の特徴を書き出しておく。 復習：授業で学んだ知識を使って、知能とその発達について考えてみる。
	第 13 回	テーマ	非認知能力とは何か？
		内 容	「意欲」「達成欲求」とは、どのようなものか学ぶ。(実験を含む)
		授業時間外 学修	予習：「やる気」とは何か、考えをまとめておく。 復習：心理学の関連図書を読み、達成欲求や承認欲求について調べる。
	第 14 回	テーマ	非認知能力とは何か？その2
		内 容	「我慢する」とは、どのような能力に関係するのか学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：自制心や忍耐について、調べておく。 復習：心理学の関連図書を読み、欲求不満耐性などについて調べる。
	第	テーマ	課題の確認

	15 回	内 容	授業を振り返り、質疑応答を通して知識を確実なものとする。
		授業時間外 学修	予習：疑問点の整理 復習：自分自身の観点から課題をまとめる。
	第 16 回		学期末レポートの講評
教科書・テキスト	授業で示したパワーポイント・スライドの内容は翌週の授業で振り返り資料として配布する。		
参考書・参考資料等	「新・知性と感性の心理」行場次朗・箱田裕司（編著）福村出版：附属図書館にあり。 その他、関連図書は随時紹介する。		
成績評価の 方法・基準	毎回の授業後に提出する小レポートと学期末のレポートにより、授業に積極的に参加したか（15%）科学的に考え、それを人に説明できるようになったか（60%）、「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活・社会についての知識・理解」を修得できたか（25%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	小レポートについては翌週の授業で講評し、必要な場合には補足説明をする。学期末レポートは、テーマを 12 月末に指示し、第 15 回目のふりかえりの時間の後に提出を求める。		
授業時間外学修	予習（各授業につき約 30 分）、復習（各授業につき約 30 分）として、授業計画で示された内容で実施すること。学期末レポートは、授業で配布された資料やノートを参照するとともに、参考書等の資料を読んで作成する。（約 50 時間）最後の授業での講評を踏まえて、知識を確実にするとともに、課題を再認識しておく。（約 3 時間）		
備 考	オフィス・アワー 金曜日 12:25-12:50 ほかに随時、E メールによる質問を受け付ける。E メール・アドレスは授業初回に提示する。		
連絡先（質問等）	「新・知性と感性の心理」行場次朗・箱田裕司（編著）福村出版：附属図書館にあり。 その他、関連図書は随時紹介する。		

授業科目	英語コミュニケーション			授業形態	演習	単位数	2	単位
担当者	熊木恒一							
ナンバリング	ELA1B07	開講時期	1 年次 前期・後期	授業時間数	60 時間	授業回数	30	回
必修・選択	幼免:必修 保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	保育園や幼稚園での生活の様々な場面で使用される英語表現を学びながら、保育現場において英語で意思の疎通や情報を伝えるための基礎的な力を身につける。							
アクティブラーニングの実施		-		ICT を活用した授業の実施		-		
到達目標	・保育現場で役立つコミュニケーションのための英語を習得することができる。 ・〔前期〕「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。 ・〔後期〕「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。							
授業計画	第 1 回	テーマ	L1. The School Year Begins					
		内 容	「やなぎ保育園」の立地や園舎、新学期の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： L1. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。					
	第 2 回	テーマ	The School Year Begins Listening, Exercises					
		内 容	L1 の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。					
		授業時間外学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。					
	第 3 回	テーマ	L2. Arrival					
		内 容	園児の登園や自由遊びの様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： L2. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。					
	第 4 回	テーマ	Arrival Listening, Exercises					
		内 容	L2 の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。					
		授業時間外学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。					
	第	テーマ	L3. Playtime in the Classroom					

	5 回	内 容	園児の教室での遊び時間の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： L3. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 6 回	テーマ	Playtime in the classroom Listening, Exercises
		内 容	L3 の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 7 回	テーマ	L4. In the Sandbox
		内 容	園児の砂場での遊びの様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： L4. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 8 回	テーマ	In the Sandbox Listening, Exercises
		内 容	L4. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 9 回	テーマ	L5. In the Playground
		内 容	園児の園庭での遊びの様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： L5. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 10 回	テーマ	In the Playground Listening, Exercises
		内 容	L5. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 11 回	テーマ	L6. Lunchtime
		内 容	園児の昼食時間の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： L6. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 12 回	テーマ	Lunchtime Listening, Exercises
		内 容	L6. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 13 回	テーマ	L7. Changing Clothes and Story Time
		内 容	園児のお昼寝前の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
		授業時間外	予習： L7. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。

		学修	復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 14 回	テーマ	Changing Clothes and Story Time Listening, Exercises
		内 容	L7. の英文内容理解を踏まえて、Exercisesを解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	L8. Nap Time
		内 容	園児のお昼寝の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ
		授業時間外 学修	予習： L8. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 16 回	テーマ	Nap Time Listening, Exercises
		内 容	L8. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 17 回	テーマ	L9. Blowing Bubbles
		内 容	園児の園庭でのシャボン玉遊びの様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： L9. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 18 回	テーマ	Blowing Bubbles Listening, Exercises
		内 容	L9. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 19 回	テーマ	L10. A Sick Child
		内 容	高熱が出た園児の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： L10. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 20 回	テーマ	A Sick Child Listening, Exercises
		内 容	L10. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 21 回	テーマ	L11. Preparation for the Sports Day
		内 容	英文の運動会案内状を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： L11. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 22 回	テーマ	Preparation for the Sports Day Listening, Exercises
		内 容	L11. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。

		学修	復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 23 回	テーマ	L12. The Sports Day
		内 容	やなぎ保育園での運動会の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： L12. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 24 回	テーマ	The Sports Day Listening, Exercises
		内 容	L12. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 25 回	テーマ	L13. Going for a Walk
		内 容	園児のお散歩の様子が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： L13. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 26 回	テーマ	Going for a Walk Listening, Exercises
		内 容	L13. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 27 回	テーマ	L14. Discovering Autumn
		内 容	園児のお散歩途中で出会った秋の風景が書かれた英文を日本語訳し、保育現場で使われる英語表現を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： L14. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 28 回	テーマ	Discovering Autumn Listening, Exercises
		内 容	L14. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 29 回	テーマ	L15. Drawing & Letter Writing
		内 容	英文の手紙の書き方を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習： L15. の英文を英和辞書を使って日本語訳する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 30 回	テーマ	Drawing & Letter Writing Listening, Exercises
		内 容	L15. の英文内容理解を踏まえて、Exercises を解く。
		授業時間外 学修	予習： Exercises を英和辞書を使って日本語訳し、解答する。 復習： 授業で学んだことを見直し、日本語訳の訂正や疑問点をまとめる。
	第 31 回		筆記試験 ※前期末にも、筆記試験を行う。
教科書・テキスト		新 保育の英語（三修社）	
参考書・参考資料等		なし。	

成績評価の方法・基準	授業毎の発表と筆記試験により、授業参加度（20%）、専門的理解の程度（60%）、「コミュニケーション能力」〔前期〕（1）・〔後期〕（3）獲得の程度（20%）で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	授業毎の発表後および試験後に講評をする。
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 授業内の発表を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約 2 時間）
備 考	授業毎の発表を課す。
連絡先（質問等）	授業前後に教室にて質問を受け付ける。

授業科目	体育講義			授業形態	講義	単位数	1	単位	
担当者	高桑秀郎								
ナンバリング	ELA1A08	開講時期	1 年次後期	授業時間数	20	時間	授業回数	10	回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目				該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。								○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。								
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。								○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。								
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。								
授業の概要・方法	子どもの身体の発育と機能の発達について、発育の特徴の観点から、運動との相互影響について検討していく。高齢者の身体的変化についての理解を進め、動作の変化や行動の特徴を把握する。救急法の基礎的事項を学び、一部実践を通じて、活動中発生する事故等について適切に対応できる力を養う。								
アクティブラーニングの実施		○			ICT を活用した授業の実施		○		
到達目標	・子どもの身体的な発育の特徴と機能の発達と運動がそれらに与える影響について理解する。 ・高齢者の身体が老化によってどのような変化を生じているのかを理解する。 ・救急法の基本事項を理解し、実践できるようにする。 ・授業に適切に参加し、授業内容の理解に努めている。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身に付ける。								
授業計画	第1回	テーマ	子どもの身体の発育・発達の一般的傾向						
		内 容	発育期の子どもの身体の特徴について学ぶ。						
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、これからの学習内容を確認しておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
	第2回	テーマ	子どもの発育・発達と運動遊びの関連性						
		内 容	発育期の子どもの身体と運動の関係、実施上の留意点について学ぶ。						
		授業時間外学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
	第3回	テーマ	高齢社会と高齢者の身体的特徴						
		内 容	日本人口の高齢化の実情と高齢者の身体的特徴について学ぶ。						
		授業時間外学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
	第4回	テーマ	高齢者と運動						
		内 容	老化防止対策としての運動のあり方や実施上の留意点について学ぶ。						
		授業時間外学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。						
	第5回	テーマ	救急法に関する基礎知識						
		内 容	救急法における一般的注意事項について学ぶ。						

	回	授業時間外 学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 6 回	テーマ	外傷の応急処置①（開放性の傷の場合）
		内 容	傷口の洗浄や消毒、止血法について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 7 回	テーマ	外傷の応急処置②（非開放性の傷の場合）
		内 容	損傷組織の違いによる傷の種類や RICE 処置について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 8 回	テーマ	救急蘇生法の手順
		内 容	JRC 蘇生ガイドラインに基づいた救急蘇生の手順を学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 9 回	テーマ	救急蘇生人形を用いた蘇生法の実践
		内 容	乳児、小児、成人の蘇生人形やトレーニング用 AED を用い、救急蘇生を行う。
		授業時間外 学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 10 回	テーマ	熱中症発生の機序と応急処置
		内 容	熱中症発生の機序を理解し、防止策、応急処置について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：前回配布された資料で、未習部分について内容を調べる。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 11 回		定期試験
教科書・テキスト		特定の教科書・テキストは使用しない。	
参考書・参考資料等		厚生 の 指 標 増 刊 国 民 衛 生 の 動 向（厚生労働統計協会） 改訂 6 版 応急手当講習テキスト 救急車が来るまでに（一般財団法人救急振興財団）	
成績評価の 方法・基準		学期末の筆記試験から、専門的理解の程度（60%）、「コミュニケーション能力（1）獲得の程度（30%）、 授業参加度（10%）で評価する。	
課題に対する フィードバックの方法		定期試験については、採点后、研究室にて個別開示し、指導助言を行う。	
授業時間外学修		予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回 60 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 定期試験に向けてノートや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 10 時間） 定期試験の結果を踏まえ、自己評価するとともに、理解が不十分な部分を確認し、既習内容を再度学習し、理解を深める。	
備 考		—	
連絡先（質問等）		オフィスアワー 水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。	

授業科目	体育実技			授業形態	実技	単位数	1	単位
担当者	高桑秀郎、小田幹雄							
ナンバリング	ELA1A09	開講時期	1 年次通年	授業時間数	40 時間	授業回数	20	回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							○
授業の概要・方法	前期は様々な運動を経験し、自らの身体を動かして経験することを通じて、自らの情緒を表出すること、他者と経験・情緒を共有することの楽しさを経験していく。 後期は自分たち同士で、ゲームを企画・立案・実践を行いながら、指導者の立場、プレイヤーの立場から遊びの展開を経験する。楽しく遊びが展開されるには何が必要かを追及する。							
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施				
到達目標	・ 諸ルールを守り、楽しく体を動かす経験を積む。 ・ 様々な運動種目の経験を通じ、体育の多様性を知り、生涯体育に必要な技能と態度を身に付ける。 ・ 対象集団の興味、能力を考慮したゲーム遊びの企画を行い、文章化し、ゲーム案として期限まで提出できる。自らの案を基に実践することができる。 ・ 実践を基に、計画の反省を行い、課題の発見と解決の方向性を文章化する。 ・ 他の学生が展開する遊びに参加し、参加者の視点から、より良い展開の仕方について考えることができる。 ・ 〔前期〕「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」を身につける。 ・ 〔後期〕「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。							
授業計画	第1回	テーマ	授業の運営と授業内のルール、開講予定日の確認（担当：高桑・小田）					
		内 容	授業運営の方法、参加の仕方など約束事を確認していく					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：配布物を再読し、提出物の準備を行う。					
	第2回	テーマ	集団で行うゲーム遊び（担当：高桑）					
		内 容	身近な集団で行う運動遊びを体験して、身体を使いながら情緒を素直に表出する。					
		授業時間外学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った遊びのルールを再確認し、行ってみる。					
	第3回	テーマ	遊具を使った遊び（担当：高桑）					
		内 容	フラフープを使った遊びのバリエーションを楽しむ。					
		授業時間外学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った遊びのルールを再確認し、行ってみる。					

	第 4 回	テーマ	レクリエーションスポーツ①（担当：高桑）
		内 容	ソフトバレーボールのルールの説明、ゲームの実践。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った種目のルールを再確認し、行ってみる。
	第 5 回	テーマ	レクリエーションスポーツ②（担当：高桑）
		内 容	ソフトバレーボールのルールの説明、ゲームの実践。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った種目のルールを再確認し、行ってみる。
	第 6 回	テーマ	水遊び①（担当：高桑）
		内 容	屋外で水鉄砲を使って、水遊びの楽しさを学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った種目のルールを再確認し、行ってみる。
	第 7 回	テーマ	水遊び②（担当：高桑）
		内 容	たかだま幼稚園園児たちと水遊びをする。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：子どもたちの様子を振り返る。
	第 8 回	テーマ	障がい者スポーツの体験（担当：高桑）
		内 容	パラリンピック正式種目を体験する。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った種目のルールを再確認し、行ってみる。
	第 9 回	テーマ	球技①（担当：小田）
		内 容	バドミントンの実践。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：バドミントンのルールを確認し、行ってみる。
	第 10 回	テーマ	球技②（担当：小田）
		内 容	卓球の実践。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：卓球のルールを確認し、行ってみる。
	第 11 回	テーマ	ニュースポーツ①（担当：小田）
		内 容	ニュースポーツの理解と実践。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った活動のルールを確認し、行ってみる。
	第 12 回	テーマ	球技③（担当：小田）
		内 容	バレーボールの実践。
		授業時間外 学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：バレーボールのルールを再確認し、行ってみる。
	第 13 回	テーマ	球技④（担当：小田）
		内 容	バスケットボールの実践。
		授業時間外	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。

	第14回	学修	復習：バスケットボールのルールを確認し、行ってみる。
		テーマ	ニュースポーツ②（担当：小田）
		内 容	ニュースポーツの理解と実践。
		授業時間外学修	予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った活動のルールを確認し、行ってみる。
	第15回	テーマ	ニュースポーツ③（担当：小田）
		内 容	ニュースポーツの理解と実践。
授業時間外学修		予習：運動のできる服装、靴、着替え等を準備して、体調を整えておく。 復習：行った活動のルールを確認し、行ってみる。	
	第16回	テーマ	ゲーム遊びの紹介・体験。グループ分けと説明（担当：高桑）
		内 容	20 分程度のゲーム遊びについて展開を交えて 2 つ経験する。発表順番の抽選を行う。
		授業時間外学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：パートナーとともに配布物を参考に自分たちが行う遊びの計画を立てる。
	第17回	テーマ	プレイリーダーとしてのゲームの企画・実践
		内 容	自分たちが企画したゲーム遊びを紹介し、実践する。
		授業時間外学修	予習：計画を事前に企画、案をまとめて教員に提出。確認してもらい助言を受け、計画の修正を行う。必要なものの準備を行い、シミュレーションを行う。 復習：実践を基に反省を行い、所定の用紙に自分たちの予測と実際、改善点などをまとめ、レポートの作成を行う。
	第18回	テーマ	プレイヤーの立場でのゲーム体験①
		内 容	他のグループが企画したゲーム遊びにプレイヤーとして参加する。
		授業時間外学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：他の人達のゲーム運営や進め方で、参考になる点をまとめておく。
	第19回	テーマ	プレイヤーの立場でのゲーム体験②
		内 容	他のグループが企画したゲーム遊びにプレイヤーとして参加する。
		授業時間外学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：
	第20回	テーマ	プレイヤーの立場でのゲーム体験③
		内 容	他のグループが企画したゲーム遊びにプレイヤーとして参加する。
		授業時間外学修	予習：運動のできる服装、靴等を準備して、体調を整えておく。 復習：他の人達のゲーム運営や進め方で、参考になる点をまとめておく。
教科書・テキスト		使用しない。	
参考書・参考資料等		体育ゲーム大事典（東陽出版） よく効くふれあいゲーム（杏林書院）	
成績評価の方法・基準		〔高桑〕 授業における活動と提出物によって授業参加度（30％）、「コミュニケーション能力」（4）獲得の程度（25％）、専門的理解の程度（45％）で評価する。 〔小田〕	

	授業における活動と提出物によって、授業参加度 (30%)、「フィードバック能力」(1) 獲得の程度 (30%)、専門的理解の程度 (40%) で評価する。 高桑、小田それぞれの評価を授業担当回数の比率に応じて合算し、算出する。
課題に対する フィードバックの方法	実践内容については毎時間、授業終了時に講評を行う。 ゲーム遊びの企画は実践前に企画書を確認の上、助言指導を行う。 ゲームの振り返りについて、担当回終了後に、指導・助言を行い、反省についても講評する。
授業時間外学修	予習（各授業回約 5 分）、復習（各授業回 7 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 ゲームの立案・準備について（30 分） ゲームの振り返りについて（30 分）
備 考	前期は授業開講曜日により、高桑担当の授業と小田担当の授業について、順番が入れ違う形となる。 16 回～20 回の授業内容については、学生の発表期日の違いにより内容が前後する。
連絡先（質問等）	オフィスアワー 高桑：水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 小田：火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分 その他、授業前後に、体育館にて質問を受け付ける。

授業科目	幼児と健康			授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	小田幹雄						
ナンバリング	ESM1A10	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	幼児期の基本的生活習慣と心身の健康に関する内容、運動あそびに関する内容を中心に、心身の調和のとれた発達について理解を深めるとともに、保育活動の一環としての運動あそびの指導ができるように、必要な能力や知識を身につけることを目標とする。						
アクティブラーニングの実施		○		ICT を活用した授業の実施		○	
到達目標	・ 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成、健康課題や運動発達を説明できる。 ・ 安全な生活や怪我、病気の予防について説明できる。 ・ 運動あそびの具体的な環境構成と援助ができる。 ・ 「自分で考え、実践できる能力」 (1) 「現状をしっかりとらえることができる」を身に付ける。						
授業計画	第 1 回	テーマ	ガイダンス・領域「健康」の考え方				
		内 容	授業の概要について理解する。 各要領、指針における領域「健康」の目的と目標を理解する。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。				
	第 2 回	テーマ	領域「健康」のねらいと内容				
		内 容	領域「健康」のねらいと内容について理解する。				
		授業時間外学修	予習：各要領、指針の領域「健康」の項目に目を通す。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。				
	第 3 回	テーマ	健康の定義と乳幼児期の健康の意義				
		内 容	健康の定義を理解し、乳幼児期の健康の意義について考える。				
		授業時間外学修	予習：乳幼児の健康問題に関するニュースや記事に目を通しておく。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。				
	第 4 回	テーマ	乳幼児期の体の発達				
		内 容	乳幼児期の身体的発達について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：事前に配布された資料に目を通す。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。				
	第 5 回	テーマ	基本的生活習慣の形成とその意義				
		内 容	規則正しい生活習慣を身につけることが健康にどう寄与するか理解する。				

	回	授業時間外 学修	予習：自分の幼児期の生活習慣について確認しておく。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 6 回	テーマ	子どもと運動
		内 容	子どもにとって運動はどのような意義があるのか理解する。
		授業時間外 学修	予習：事前に配布された資料に目を通す。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 7 回	テーマ	幼児期の健康と運動あそび1 ― 鬼遊び① ―
		内 容	鬼ごっこを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 8 回	テーマ	幼児期の健康と運動あそび2 ― 鬼遊び② ―
		内 容	鬼ごっこを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 9 回	テーマ	幼児期の健康と運動あそび3 ― 鬼遊び③―
		内 容	鬼ごっこを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 10 回	テーマ	幼児期の健康と運動あそび4 ― ネイチャージャンプ①―
		内 容	ネイチャージャンプを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 11 回	テーマ	幼児期の健康と運動あそび5 ―ネイチャージャンプ②―
		内 容	ネイチャージャンプを実際に体験し、その特徴や魅力を理解する。また、年齢にあった活動内容や配慮事項等について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 12 回	テーマ	子どもとコーディネーション能力①
		内 容	コーディネーション能力とはどのような能力を指すのか理解する。
		授業時間外 学修	予習：事前に配布された資料に目を通す。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 13 回	テーマ	子どもとコーディネーション能力②
		内 容	コーディネーショントレーニングの体験
		授業時間外 学修	予習：体調を整え、運動に適した服装やシューズ等を準備する。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。

	第 14 回	テーマ	安全教育・健康管理の理解
		内 容	生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うこと、子どもが自らの体や健康に関心を持ち、心身の機能を高めていく必要性について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：事前に配布された資料に目を通す。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 15 回	テーマ	乳幼児期の怪我の特徴と疾病の予防について
		内 容	乳幼児期に多い怪我や病気、その予防や対策について学ぶ。
		授業時間外 学修	予習：事前に配布された資料に目を通す。 復習：授業内容を振り返り、学習内容や課題についてまとめる。
	第 16 回		
教科書・テキスト	幼稚園教育要領解説（フレーベル館） 保育所保育指針解説（フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）		
参考書・参考資料等	授業内容に応じて適宜資料を配付する。		
成績評価の 方法・基準	実践活動と課題提出による、領域「健康」の理解（70%）、授業参加度（30%）		
課題に対する フィードバックの方法	授業時に提出された課題レポートについては内容を確認後に講評する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 グループ毎の指導案の作成、教材の準備、実践の打ち合わせ及び振り返りの記録とまとめ（約 6 時間） フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約 3 時間）		
備 考	運動に適した服装とシューズを着用し授業を受けること。 運動に制限がある学生は事前に申告すること。		
連絡先（質問等）	オフィス・アワー 火曜 12:25～12:50 その他、授業前後に教室にて質問を受ける。		